

報告

西南女学院大学生のキャンパスニーズに関する調査

上村 眞生*	小田日出子**
天本 理恵***	塚本 美紀****
高橋 幸夫*****	篠木 賢一*****

＜要 旨＞

西南女学院大学・大学短期大学部では、各学科において、将来、専門職として働く人材を育成している。そこで、専門職同士が協働するための基礎となる力（社会人基礎力）を身につけることができるよう、正課外における学生の主体的な学びを促進する必要があると考える。そのため、本稿では、学生の主体的な学びを促進するための環境作りのための基礎資料を得ることを目的に実施した、学生のキャンパスニーズについての調査結果を報告する。

結果から、全体の6割の学生がキャンパスに満足していることが明らかとなった。一方で、正課外学習に注力している学生は1割程度であった。また、学生間や学生と教職員の交流機会の確保を望む声が確認された。

キーワード：キャンパスニーズ、正課外学習

I. 問題の所在と目的

西南女学院大学・大学短期大学部では、全学科で何らかの専門職養成を行っており、そのための創意工夫された独自のカリキュラムが準備されている。さらに、近年の高等教育においては、「基礎学力」「専門知識」に加え、それらをうまく活用する「社会人基礎力」の意識的な育成が求められている¹⁾。社会人基礎力とは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」であり、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力とされており、専門職養成を担う本学においてもその基盤となる力として育成に取り組んでいるところである。特に本学では、2018年度に全学的に総合人間科学科目群・一般教育科目群を見直し、学士力・礼節マナー・社会人基礎力を基盤とした人間力の育成を掲げており、社会人基礎力は非常に重要な資質の一つとして位置づいている。

この社会人基礎力育成に有効な教育方法として、「学生自身による目標設定・プロセスデザイン」「教員の支援の関与による主体的学習の促進」「カリキュラム化による継続性の確保」が挙げられており²⁾、実施形態の

一つとして課題解決型学習（Project Based Learning = 以下、PBL型学習）における有効性が示唆されている³⁾。これを受け、本研究の筆者らを含む教職員グループを中心として、西南女学院大学・大学短期大学部内においてPBL型学習を促進するための学生の学びの拠点作りを試行することとした。ここでのPBL型学習は、各学科の講義内において実施されている初年次導入教育や専門教育に則ったものではなく、学科横断的な任意のグループによる学生主体のものを想定した。その理由は、社会人基礎力が「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」とされており、専門教育に捉われぬ多様な背景を持つ他者との関わりの中で育つという点を重視するからである。そのため、本取り組みにおけるPBL型学習は、正課外における学科横断的な学生同士による自主的な活動を基本とし、担当する教職員が活動毎に課題を明確にし、解決へ向けた援助を行うものとする。そして、PBL型学習の成果としては、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの観点によるポートフォリオを作成し、個人内の成長を測ることを検討している。

ところで、本学学生の正課外の過ごし方について、

* 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科
 *** 西南女学院大学保健福祉学部栄養学科
 ***** 西南女学院大学人文学部観光文化学科

** 西南女学院大学保健福祉学部看護学科
 **** 西南女学院大学人文学部英語学科
 ***** 西南女学院大学短期大学部保育科

「学生実態調査」⁴⁾から、正課との比較で以下のような結果が示された。大学では、「週の授業への出席時間」が週平均 11.83 時間であるのに対し、「携帯電話の使用」が週平均 10.22 時間、「アルバイト」が週平均 8.50 時間であった。また、短期大学部では「週の授業への出席時間」が週平均 15.66 時間であるのに対し、「携帯電話の使用」が週平均 11.88 時間、「友人との交際」が 10.19 時間、「アルバイト」が週平均 9.97 時間であった。この結果にあるように、正課外の過ごし方の一つである「携帯電話の使用」に費やす時間は、「週の授業への出席時間」と大差のない結果であった。この「携帯電話の使用」については、様々なことが考えられる。例えば、スマートフォンの普及に伴い、携帯電話を利用した学習も一般的となっている。さらに、休講・補講、教室変更等の確認、公共交通機関の時間の検索、友人との連絡等、携帯電話は生活に欠かせないデバイスであると言える。しかし、大学では平均で週の講義時間と 1.61 時間、短期大学部では 3.78 時間の差しかなくことが明らかとなっている。例えば、この「携帯電話の使用」時間を少しでも社会人基礎力の育成を志向した PBL 型学習に充てることができれば、学生の社会人基礎力向上のための有意義な時間を提供することになるのではないだろうか。そのためには、現在の西南女学院大学のキャンパスが本取り組みで想定している PBL 型学習を実施するにあたり、どのような環境整備を行う必要があるかを明らかにする必要がある。

そこで本調査では、正課外活動における社会人基礎力養成を行うための PBL 型学習を実施するために、西南女学院大学の学生が現状の本学の学習環境に対してどのようなニーズを持っているかを明らかにし、学生による自主的な PBL 型学習促進のための基礎資料とすることを目的とする。

II. 調査方法

1. 質問項目の生成

学生による自主的な PBL 型学習を促進するにあたり、西南女学院大学の学生が現状の本学の学習環境に対してどのようなニーズを持っているかを明らかにするために、キャンパスニーズに関する質問紙を作成した。質問紙作成に当たり、筆者と共同研究者 3 人、保健福祉学部 3 学科の学生 10 人（看護学科 2 年生 5 人、福祉学科 2 年 1 人、栄養学科 2 年生 1 人、看護学科 3 年生 1 人、福祉学科 3 年生 1 人、栄養学科 3 年生 1 人）

により、想定され得る学生による自主的な PBL 型学習の内容を踏まえた上で、キャンパスに対するニーズについてブレインストーミングを行った。その際、想定された PBL 型学習には、学生によるプレゼン資料のコンテスト大会や学科間交流イベントの開催等が上げられた。ブレインストーミングの結果、①キャンパスに対する満足度、②大学生生活全般についてのニーズ、③教職員との交流についてニーズ、④学習設備に関するニーズ、⑤理想のキャンパス像の 5 つのカテゴリーが抽出された。その後、各カテゴリーの構成要素を基に無記名式の質問紙を作成した（資料 1 参照）。

①キャンパスに対する満足度については、現状のキャンパスに対して学生が総合的にどのように考えているかを把握する項目として設定した（資料 1：設問 1④-⑧）。②大学生生活全般についてのニーズについては、今後正課外における学科横断的な学生同士による自主的な PBL 型学習を実施するにあたり、学内イベントへの希望や他学科への関心を明らかにする為の項目として設定した（資料 1：設問 2①-⑦）。本取り組みでは、今後の PBL 型学習については、教職員が必要な援助を行いながら進めていくことを考えている。それを踏まえ、教職員との日常的な交流機会の確保は、PBL 型学習を進める上で教・職・学の協働に必要であるという意見から③教職員との交流についてニーズについての項目を設定した（資料 1：設問 3①-⑦）。④学習設備に関するニーズについては、今後の PBL 型学習活動を念頭においた上で、どのような学習設備に対してニーズがあるかを把握しておく項目として設定した（資料 1：設問 2⑧-⑫、設問 4①-⑫）、⑤理想のキャンパス像は、質問項目だけでは把握しきれない、学生の希望を自由記述の形式で問うた（資料 1：設問 5①-④自由記述）。

2. 調査手続き

この質問紙を 2017 年度後期開始時に、西南女学院大学各学科の 1 年生から 3 年生、西南女学院大学短期大学部保育科 1 年生に対し、口頭で調査趣旨を説明した後、厳封可能な封筒に入れて配布した。回答後各自で厳封し、提出するよう求めた。回収は、各学科の共同研究者の研究室前に準備した回収ボックスへの投函にて行い、回答者の匿名性を担保した。調査用紙回収後は、速やかに数量データ化を行った。

3. 集計

配布数 1214 (2017 年 5 月 1 日現在の学生数を元に算出)、回収数 461 (38.0%)、有効回答数 444 (36.6%)であった。本調査は、学生による自主的な PBL 型学習促進のための基礎資料を得ることを目的としているため、結果については、Microsoft Excel 2010 を用いた単純集計と図表の作成のみを行った。また、⑤理想のキャンパス像については、いくつかの多様な回答が得られたが、キャンパスニーズという内容とは関連のないものであり、今後の正課外における学科横断的な学生同士による自主的な PBL 型学習において検討することとし、本報告においては集計・分析の対象としなかった。

4. 倫理的配慮

本調査は西南女学院倫理審査 (2016 年度第 16 号) の承認を得て実施している。

Ⅲ. 結果

1. 回答者の属性

回収率は 38.0% で、回答者の属性は看護学科 22.7%、福祉学科 13.7%、栄養学科 9.0%、英語学科 20.7%、観光文化学科 31.8%、保育科 1.4% であった。保育科については、学生数、対象が 1 年生だけであることから低い割合となっている。(図 1)

2. キャンパス満足度

65.1% が「満足している」と捉えており、そのうち「非常に満足」している学生は 12.6% であった。また、「不満」を持っている学生は 33.4% であった。

本項目では、満足している点、不満な点について、自由記述でも回答を求めたところ、表 1 のような回答が得られた。学習面、人間関係に関する回答については、満足している点、不満な点の双方で確認されたが、施設・設備に関する回答は不満な点のみで確認された。(図 2) (表 1)

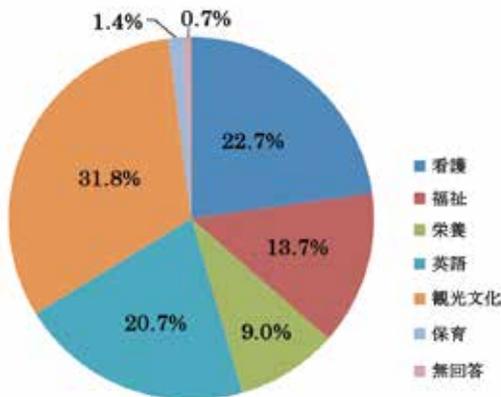


図 1 回答者の属性

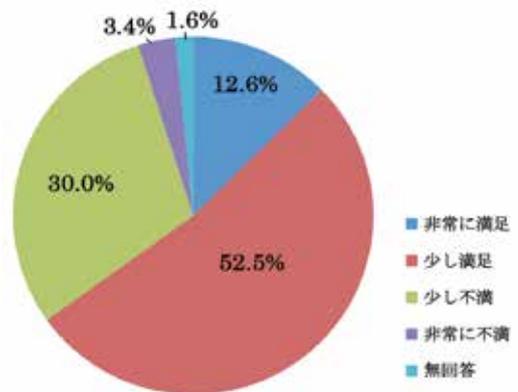


図 2 キャンパス満足度

表 1 満足な点と不満な点

満足している点	不満な点
講義が楽しい	講義が面白くない
友人との関係	課題が多い・テストが大変
教員との関係	友人との関係
サークル	教員との関係
	事務の対応
	他学科・他大学交流
	施設設備(坂・トイレ・空調・Wi-Fi)
	食堂・ショップ
	学習環境(図書館・演習室)
	学費

3. 大学生活で最も力を注いでいること

52.7%が「正課」に注力していることが明らかとなった。次に注力しているのは、「アルバイト」で13.5%であった。正課外学習については、5.9%と4番目に低い結果であった。(図3)

4. 学内における正課外イベントの参加意思

学内で正課外イベントを開催した際に参加する意思があるかどうかを尋ねたところ、47.1%が参加の意思があることが分かった。また、自由記述において、どのようなイベントを希望しているか尋ねたところ、「他学科交流」・「運動会」・「音楽祭」・「季節の行事」・「他大学交流」という意見が上がった。(図4)

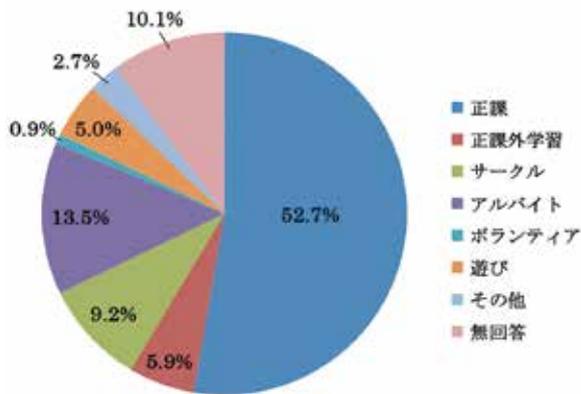


図3 大学生活で最も注力していること

5. 他学科の学習内容への関心

図5に示すように、他学科の学習内容へ関心がある学生は全体で57.9%であることが分かった。(図5)

6. 友人と勉強する場所

表2に勉強する時友人とよく過ごす場所についての回答を示す(複数回答)。結果から、キャンパス内における学習環境として、150人の学生が「図書館」と回答し、次いで138人の学生が「空き教室」と回答していた。また、空き教室に関する自由記述において、授業をしているかどうかをWEB上や教室外から確認できるような手立てが欲しいという意見が上がった。(表2)

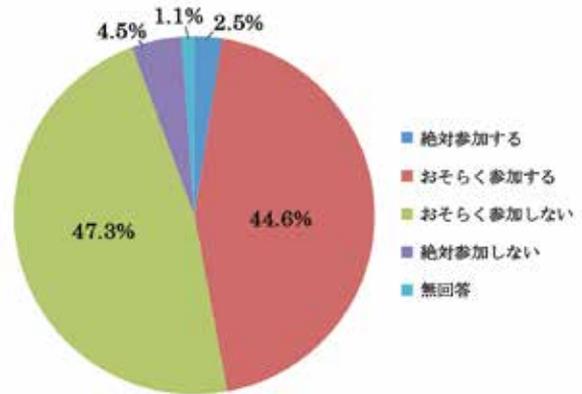


図4 学内イベントの参加意思

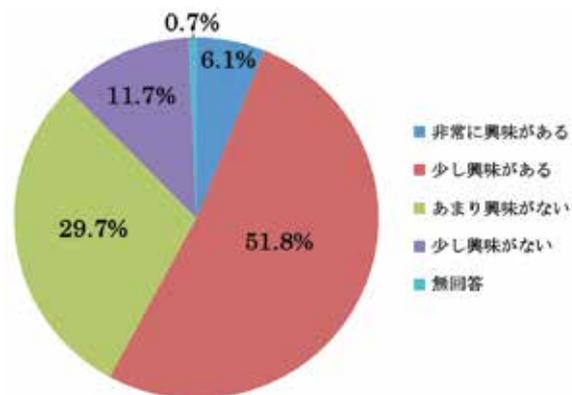


図5 他学科の学習内容への関心

表2 友人と勉強する場所(複数回答)

場所	人数(人)
空き教室	138
演習室	26
情報処理演習室	46
図書館	150
学生食堂	127
中庭	5
部室	4
談話室	14
5号館1階	72
6号館1階	28
8号館1階	3
学外	19
その他	7

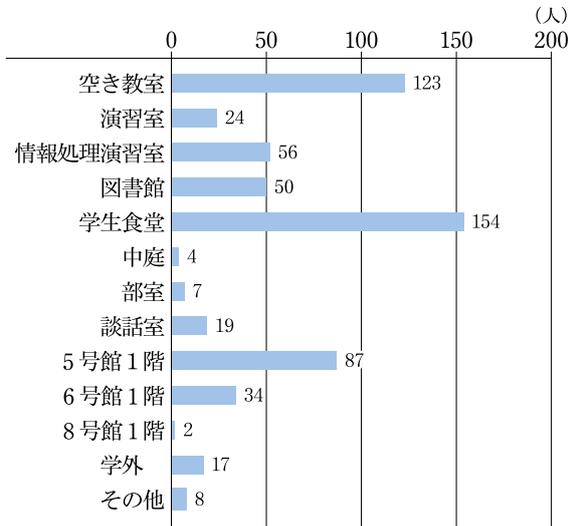
7. 友人と空き時間を過ごす場所

談話・飲食を含め空き時間を過ごす場所として154人の学生が「学生食堂」と回答しており、ニーズが高いことが確認された。さらに、ここでも「空き教室」で過ごすという学生が123人おり、需要が高いことが明らかとなった。(表3)

8. 友人と授業後過ごす場所

授業後過ごす場所としては、「学外」と回答した学生が132人と最も多く、正課外の学習をキャンパス内で行いにくい状況であることが伺える結果であった。(表4)

表3 友人と空き時間を過ごす場所 (複数回答)



9. グループ課題をする場所

グループ課題をする場所としては、110人が「空き教室」、101人が「学生食堂」、98人が「図書館」、93人が「情報処理演習室」と回答していた。(表5)

10. 一人で過ごす場所

「図書館」で過ごす学生が183人と最も多く、学内で自学をする上では、図書館は有効な場所であることが確認された。一方で、自由記述において、席数についての不満が上がった。特に、学期末試験前に混み合うことで、日常的に図書館を使用している学生が使用できなくなるという不満が上がった。(表6)

表4 友人と授業後過ごす場所 (複数回答)

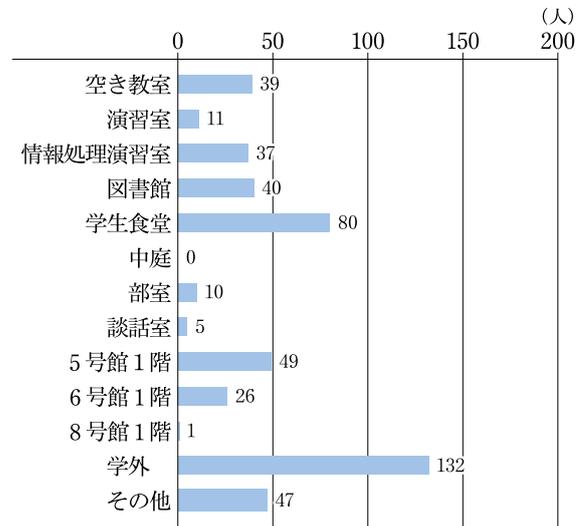


表5 グループ課題をする場所 (複数回答)

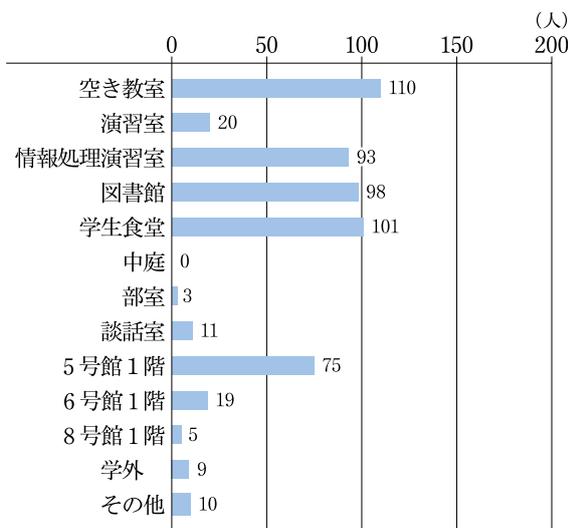
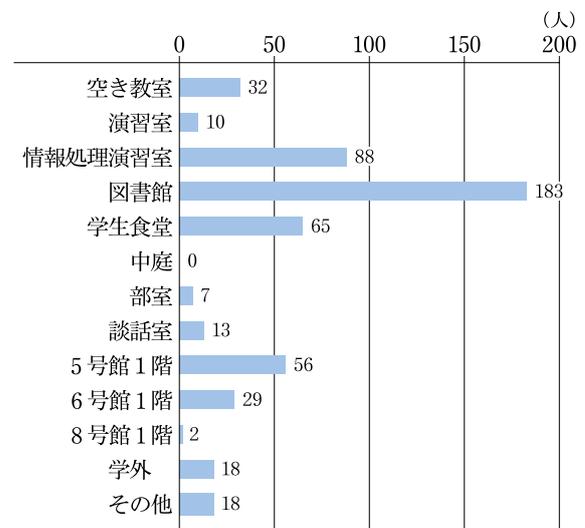


表6 一人で過ごす場所 (複数回答)



11. 教職員との交流機会

在学生の教職員との交流機会について、現状では、授業担当者で日常的に交流がある学生は28.2%であり、授業担当外教員とは13.3%であった。また、職員においては7.9%の学生において交流機会があると答えた。自由記述の中に、教職員のことを知ることで、教職員や大学に愛着が湧くことや、同じ場所（キャンパス内）にいながら学生のためにどのように機能しているかが分からないのが不思議であるという趣旨の意見があった。（図6）

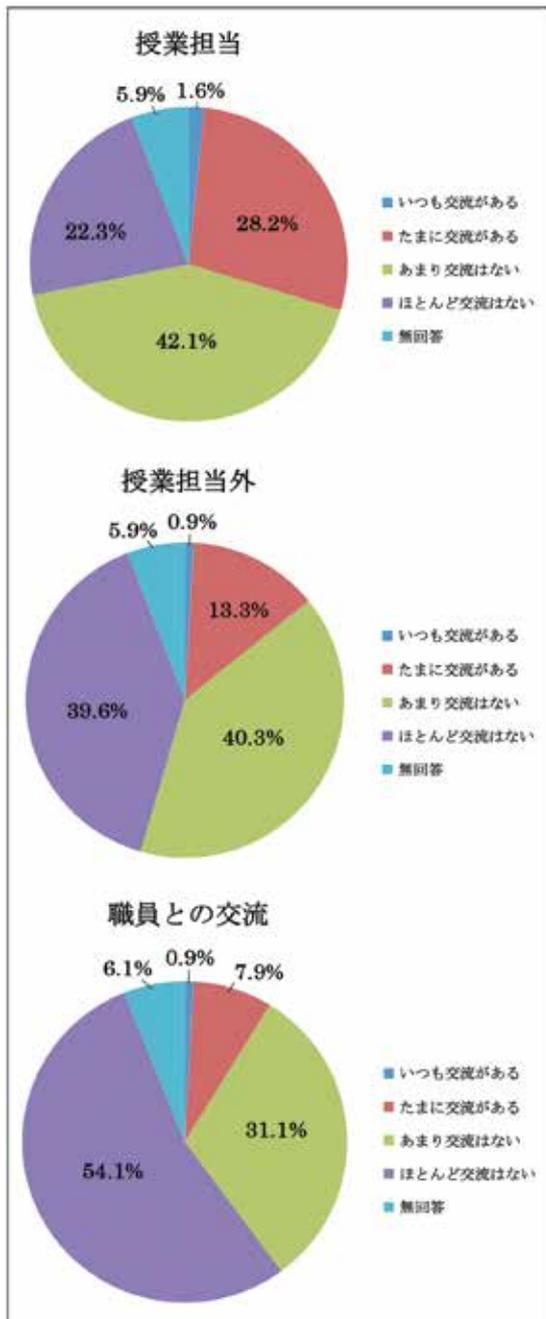


図6 教職員との交流機会

12. 教職員について

学生自身が所属する学科の教員の専門領域を知っていると答えた学生は29.7%という結果であった。また、事務の各課がどのような役割を担っているかについては「半分くらい知っている」学生が13.7%であった。（図7）

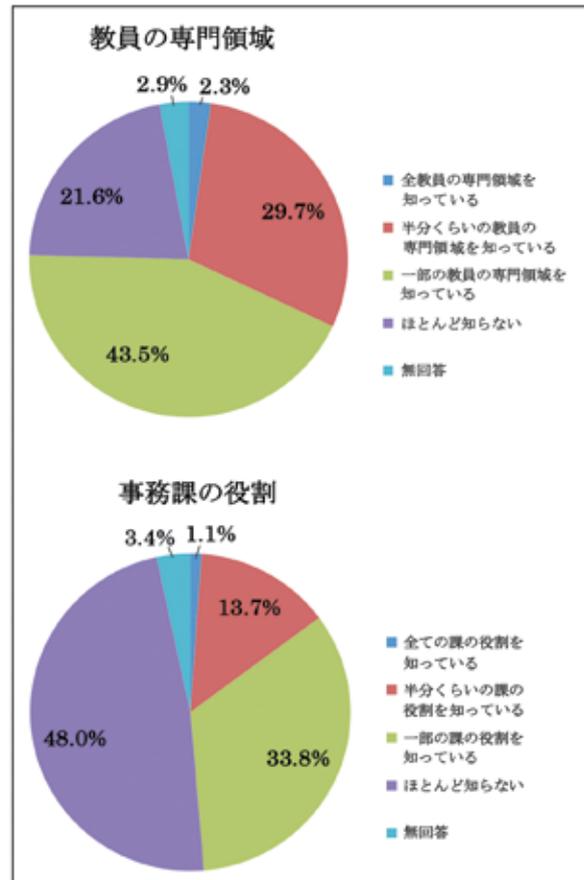


図7 教職員について

13. 教職員に対する満足度について

教職員に対する満足度について、教員に対して満足している学生は81.0%、職員に対して満足している学生は70.7%であった。また、どのような点について、満足か不満足かを尋ねた自由記述においては、「接しにくい」という趣旨の意見があった。また、「交流することがないので満足も不満もない」という意見もあった。(図8)

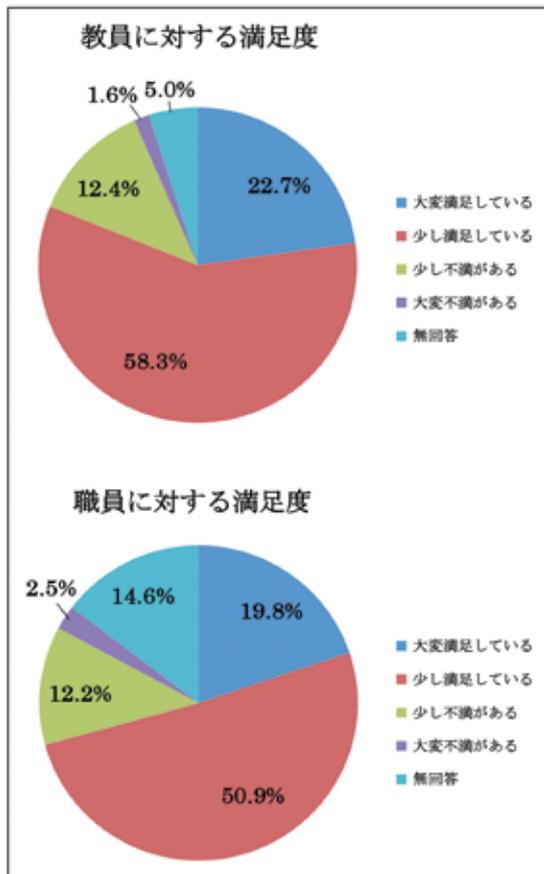


図8 教職員に対する満足度

IV. 考察

質問紙作成の際に抽出した5つのカテゴリーのうち、集計の対象とした4つのカテゴリーについて、結果から、以下のようなことが考えられる。①キャンパスに対する満足度については、77.7%が「満足している」となっており、不満な点として上がったのは、施設・設備に関する内容であった。学習内容や人間関係については、満足な点、不満な点の双方に見られることから、学生の満足度を高めるためには、施設・設備の充実という点は不可欠であると考え。とりわけ、18歳人口の減少や大学満足度ランキング等が公表されている昨今においては、満足度は可能な限り高い方が良いと考えられるため、今後の取り組みが必要であろう。また、52.7%が正課に注力しており、正課外学習へ注力している学生は5.9%であった。本取り組みでは、正課外学習を通じた社会人基礎力育成を念頭に行っていることから、正課外への注力の割合については、今後高める取り組みを検討する必要がある。

②大学生生活全般についてのニーズについては、学内イベントの希望、他学科の学習内容の関心共に50%前後のニーズがあり、有効回答者数が444人であることを考えると、200人以上の学生が希望していることとなる。本取り組みにおいて社会人基礎力は、正課外における学科横断的な学生同士による自主的なPBL型学習を進める中で育成しようと考えているため、学科間交流に繋がる本結果は今後の参考となる。

③教職員との交流についてのニーズについては、いずれの交流機会においても30%を下回っており、教員の専門領域や事務の職務内容の把握についても同様の結果であった。その一方で、教職員に対する満足度はいずれも70%を越えていた。自由記述において、「交流する機会がないので不満も満足もない」という意見が上がっていることから、現状では特に不満とすることがないという結果と考えられる。

④学習設備に関するニーズについては、勉強する場所、授業のない時間を過ごす場所、グループ課題をする場所として「空き教室」の利用ニーズが高い結果であった。学習内容によっては、複数の学生の議論を要するものがあることや、談話、飲食が可能なスペースとして利便性が高いことに起因すると考えられる。その上で、空き教室を知る方法が欲しいという自由記述意見があり、この点については教室ドアに札を貼る等、すぐにでも改善できる方法もあるため、検討したいと考える。

V. まとめ

本調査は、社会人基礎力育成を目的とする、正課外における学科横断的な学生の自主的な活動を通じたPBL型学習を実施するための学びの拠点作りを試行するための基礎資料を得ることを目的として実施した。調査の内容は、今後の活動に活用し得る学生のニーズ、学習面における現在の西南女学院大学に対するニーズを問うもので構成した。質問項目は、共同研究者に加え、在学生の意見を基に構築したものを使用した。

結果から、キャンパス全体への満足度としては、65.1%の学生が満足していることが明らかとなった。また、本学の学生の52.7%が正課に注力しており、正課外学習へ注力する学生は5.9%に止まるものであった。今後、本調査の目的である学生の自主的なPBL型学習の促進がなされれば、正課外学習において注力する割合が増えると考えられる。

また、学内でのイベント開催を希望する学生や他学科の学習内容に関心を持つ学生がどちらも半数程度存在していた。この点を踏まえた取り組みがなされれば、キャンパス全体の満足度の上昇につながる事が考えられる。

今後は、本結果を基に、学生の自主的な活動を通じたPBL型学習のための環境整備、取り組みを実施していく。

謝辞

本調査を実施するにあたり、ご協力いただいた西南女学院生、調査実施においてご協力いただいたStep UPの学生に心よりお礼申し上げます。

また、本調査の実施に際し、様々なご助言、ご協力をいただいた藤川信幸様、橋本久美子様、五十嵐勝様、伊藤直子様、伊東幸雄様、三宅利佳様、小川尚様、八尋春海様、横溝紳一郎様に心よりお礼申し上げます。

附記

本調査は、西南女学院大学2017年度共同研究費による助成を受けて実施した。

引用文献

- 1) 経済産業省ホームページ 社会人基礎力.
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>
(取得日2018年9月1日)
- 2) 経済産業省. 「社会人基礎力を育成する授業30選」実践事例集. pp.2-5, 2014
- 3) 経済産業省. 今日から始める社会人基礎力育成と評価. pp.7-21, 2007
- 4) 西南女学院大学・大学短期大学部学生部学生課. 西南女学院大学・大学短期大学部2017年度学生生活に関する実態調査【調査結果報告書】. pp.22, 2018

資料1

西南女学院の学生のキャンパスニーズに関する調査

以下の質問で選択肢があるものは当てはまるものに○を、記述式のものは（ ）に適切な答えをご記入ください。

1. あなたのプロフィールに関するおたずねです。

①あなたが所属する学科は何科ですか。

(看護学科 ・ 福祉学科 ・ 栄養学科 ・ 助産別科 ・ 英語学科 ・ 観光文化学科 ・ 保育科)

②あなたは何年生ですか。

(1年生 ・ 2年生 ・ 3年生 ・ 4年生 ・ 過年度生)

③あなたの入学試験形態は何ですか。

(一般推薦 ・ 指定校推薦 ・ 併設校 ・ AO ・ 一般前期 ・ センター利用 ・ 一般後期)

④あなたの入学目的は何ですか。

[卒業資格 (学位) の取得 ・ 専門資格の取得 ・ 学問的好奇心を満たすため ・ 「学生」でいるため ・ 周囲の勧め ・ 何となく ・ その他 ()]

⑤あなたの現在の就学目的は何ですか。

[卒業資格 (学位) の取得 ・ 専門資格の取得 ・ 学問的好奇心を満たすため ・ 「学生」でいるため ・ 周囲の勧め ・ 何となく ・ その他 ()]

⑥現在あなたが最も力を注いでいることは何ですか。

[正課の勉強 ・ 正課外の勉強* ・ サークル ・ アルバイト ・ ボランティア ・ 遊び ・ その他 ()]

* ここでの「正課外の勉強」は、各学科の卒業や資格取得とは関係のない、個人がそれぞれの興味・関心に基づいて取り組んでいる資格試験など、個人的な学習活動を意味しています。

⑦西南女学院のキャンパスライフにどの位満足していますか。それは何故ですか。

(非常に満足 ・ 少し満足 ・ 少し不満 ・ 非常に不満)

理由：()

⑧西南女学院のキャンパスライフで最も満足している点と最も不満な点を教えてください。

最も満足な点 () 最も不満な点 ()

2. 大学生活全般に関するおたずねです。

①学園祭やクリスマス礼拝以外に学院全体のイベントがあれば参加しますか。

(絶対参加する ・ おそらく参加する ・ おそらく参加しない ・ 絶対参加しない)

②どのようなイベントを希望しますか。

()

③他学科の勉強内容に興味がありますか。

(非常に興味がある ・ 少し興味がある ・ あまり興味がない ・ 全く興味がない)

④他学科との交流の場があれば参加しますか。

(絶対参加する ・ おそらく参加する ・ おそらく参加しない ・ 絶対参加しない)

⑤他学科に友人はいますか。

(複数の学科にいる ・ 別の一つの学科にいる ・ いない)

⑥他学科の友人と交流する時間はどれ位ありますか。

週に () 時間くらい

⑦授業 (サークルやボランティア含む) 外で、大学の友人と過ごす時間はどれ位ありますか。

週に () 時間くらい

⑧勉強する時、友人とよく過ごす場所はどこですか。

(空き教室 ・ 演習室 ・ 情報処理演習室 ・ 図書館 ・ 学生食堂 ・ 中庭 ・ 部室 ・ 2号館談話室)
(5号館1階ロビー ・ 6号館1階ロビー ・ 8号館1階 ・ 学外 ・ その他 ())

⑨空きコマの時間に、友人とよく過ごす場所はどこですか。

(空き教室 ・ 演習室 ・ 情報処理演習室 ・ 図書館 ・ 学生食堂 ・ 中庭 ・ 部室 ・ 2号館談話室)
(5号館1階ロビー ・ 6号館1階ロビー ・ 8号館1階 ・ 学外 ・ その他 ())

⑩放課後、友人とよく過ごす場所はどこですか。

(空き教室 ・ 演習室 ・ 情報処理演習室 ・ 図書館 ・ 学生食堂 ・ 中庭 ・ 部室 ・ 2号館談話室)
(5号館1階ロビー ・ 6号館1階ロビー ・ 8号館1階 ・ 学外 ・ その他 ())

⑪グループで課題をする時、よく過ごす場所はどこですか。

(空き教室 ・ 演習室 ・ 情報処理演習室 ・ 図書館 ・ 学生食堂 ・ 中庭 ・ 部室 ・ 2号館談話室)
(5号館1階ロビー ・ 6号館1階ロビー ・ 8号館1階 ・ 学外 ・ その他 ())

⑫キャンパス内で一人でいる時、よく利用する場所はどこですか。

(空き教室 ・ 演習室 ・ 情報処理演習室 ・ 図書館 ・ 学生食堂 ・ 中庭 ・ 部室 ・ 2号館談話室)
(5号館1階ロビー ・ 6号館1階ロビー ・ 8号館1階 ・ 学外 ・ 学内に適当な場所がない)
(その他 ())

3. 教員、事務職員、および事務課に関するおたずねです。

①授業担当の専任教員と授業以外で交流はありますか。

(いつも交流がある ・ たまに交流がある ・ あまり交流はない ・ ほとんど交流はない)

②授業担当以外の専任教員と授業以外で交流はありますか。

(いつも交流がある ・ たまに交流がある ・ あまり交流はない ・ ほとんど交流はない)

③事務職員と諸手続以外で交流はありますか。

(いつも交流がある ・ たまに交流がある ・ あまり交流はない ・ ほとんど交流はない)

④あなたが所属する学科の教員の専門領域についてどの位ご存知ですか。

(全員の専門領域を知っている ・ 半分位の教員の専門領域を知っている)
(一部の教員の専門領域のみ知っている ・ ほとんど知らない)

⑤事務の各課がどのような役割を担っているかご存知ですか。

(全ての課の役割を知っている ・ 半分位の課の役割を知っている)
(一部の課の役割のみ知っている ・ ほとんど知らない)

⑥教員・職員との関係性について、どの位満足していますか。

教員：(大変満足している ・ 少し満足している ・ 少し不満がある ・ 大変不満がある)
それは何故ですか→ ()

事務職員：(大変満足している ・ 少し満足している ・ 少し不満がある ・ 大変不満がある)
それは何故ですか→ ()

⑦教員・職員とどのような交流が必要だと思いますか。

教員：()

職員：()

4. 演習室、図書館、情報処理演習室、その他、学内施設・設備の利用に関するおたずねです。

①演習室をどの位利用していますか。

(毎日 ・ 2日に1回 ・ 週に1,2回 ・ 月に1,2回 ・ テスト前だけ ・ 利用しない)

②演習室を使いたいのに使えないことがありますか。

(いつも使える ・ たいてい使える ・ 時々使えない ・ いつも使えない)

③演習室の開室時間は適当ですか。

(適当である ・ 開室が遅い ・ 閉室が早い ・ 開室が遅く閉室が早い)

④演習室で使用可能な物品は充実していますか。

(充実している ・ ある程度充実している ・ 少し不足している ・ 全く充実していない)
特に充実させてほしいものがあれば記入してください。→ ()

⑤図書館をどの位利用していますか。

(毎日 ・ 2日に1回 ・ 週に1,2回 ・ 月に1,2回 ・ テスト前だけ ・ 利用しない)

⑥図書館を使いたいのに使えないことがありますか。

(いつも使える ・ たいてい使える ・ 時々使えない ・ いつも使えない)

⑦図書館の開館時間は適当ですか

(適当である ・ 開館が遅い ・ 閉館が早い ・ 開館が遅く閉館が早い)

- ⑧図書館で使用可能な物品は充実していますか。
(充実している ・ ある程度充実している ・ 少し不足している ・ 全く充実していない)
特に充実させてほしいものがあれば記入してください。→ ()
- ⑨普段の図書館の学習スペースは足りていますか。
(充実している ・ ある程度充実している ・ 少し不足している ・ 全く足りていない)
- ⑩テスト前の図書館の学習スペースは足りていますか。
(充実している ・ ある程度充実している ・ 少し不足している ・ 全く足りていない)
- ⑪普段の図書館以外の学習スペースは足りていますか。
(充実している ・ ある程度充実している ・ 少し不足している ・ 全く足りていない)
- ⑫テスト前の図書館以外の学習スペースは足りていますか。
(充実している ・ ある程度充実している ・ 少し不足している ・ 全く足りていない)
- ⑬情報処理演習室をどの位利用していますか。
(毎日 ・ 2日に1回 ・ 週に1,2回 ・ 月に1,2回 ・ テスト前だけ ・ 利用しない)
- ⑭情報処理演習室を使いたいのに使えないことがありますか。
(いつも使える ・ たいてい使える ・ 時々使えない ・ いつも使えない)
- ⑮情報処理演習室の開室時間は適当ですか。
(適当である ・ 開室が遅い ・ 閉室が早い ・ 開室が遅く閉室が早い)
- ⑯情報処理演習室で使用可能な物品は充実していますか。
(充実している ・ ある程度充実している ・ 少し不足している ・ 全く充実していない)
特に充実させてほしいものがあれば記入してください。→ ()
- ⑰学生食堂・生協ショップをどの位利用していますか。
(毎日 ・ 2日に1回 ・ 週に1,2回 ・ 月に1,2回 ・ テスト前だけ ・ 利用しない)
- ⑱学生食堂・生協ショップを使いたいのに使えないことがありますか。
(いつも使える ・ たいてい使える ・ 時々使えない ・ いつも使えない)
- ⑲学生食堂・生協ショップの営業時間は適当ですか。
(適当である ・ 開店が遅い ・ 閉店が早い ・ 開店が遅く閉店が早い)
- ⑳学生食堂・生協ショップで取り扱う商品は充実していますか。
(充実している ・ ある程度充実している ・ 少し不足している ・ 全く充実していない)
特に充実させてほしいものがあれば記入してください。→ ()

①学習スペースに求めるものはどのようなものがありますか（複数回答可）。

（ 空調・音響・視聴覚器材・部屋の広さ・電子機器（パソコンやプロジェクタ等）
荷物置き・机、椅子・部屋のデザイン・複数で意見交換できること・コンセント
教材・無線LAN・飲食物の販売・その他（ ） ）

②演習室や空き教室等、自由に使える場所を知る方法として、あなたが希望するのはどれですか。

（ ネット上で確認・掲示板で確認・教室前の掲示・教務課等の窓口で確認
その他（ ） ）

5. あなたの考えを自由にお答えください。

①キャンパスにいて何が楽しいですか。

（
）

②キャンパスで何をしたら楽しいと思いますか。

（
）

③キャンパスに欲しいと思う（あればよいと思う）設備がありますか。

（
）

④あなたが考える理想のキャンパス像を教えてください。

（
）

⑤その他、ご意見等あれば自由にお書きください。

（

）

Research on Students' Campus Needs

Masao Uemura ^{*}, Hideko Oda ^{**}, Rie Amamoto ^{***},
Miki Tsukamoto ^{****}, Yukio Takahashi ^{*****}, Kenichi Shinoki ^{*****}

<Abstract>

Each department of Seinan-Jo Gakuin University is training students to become specialists in the future. We think it necessary to nurture students' independent learning ability in classes and in extracurricular activities so that they can acquire the basic competence they need to help them work together with other specialists in the near future. This paper reports on the results of our research on students' campus needs in order to get data which could be used to facilitate students' independent learning ability.

The result shows that 60 percent of the students are satisfied with their campus life, while 10 percent of the students put much emphasis on extracurricular activities. This shows that extracurricular activities should be improved. In particular, this research shows that many students would like more opportunities to communicate with other students, the faculty and the staff and facilities which allow them.

Keywords: students' campus needs, independent learning ability

* Department of Welfare, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University
** Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University
*** Department of Nutritional Sciences, Faculty of Health and Welfare, Seinan Jo Gakuin University
**** Department of English, Faculty of Humanities, Seinan Jo Gakuin University
***** Department of Tourism, Faculty of Humanities, Seinan Jo Gakuin University
***** Department of Early Childhood Education and Care, Seinan Jo Gakuin University Junior College